

先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	インタラクティブメディア設計学 (加藤 博一 (教授))		
学籍番号	2311156	提出日	令和 7年 1月 22日
学生氏名	高橋 顕太		
論文題目	アニメ調ロボットの実現のためのバーチャルエージェントを用いた外見と動きの関係が不気味さに与える影響の調査		
要旨			
<p>人型ロボットの外見は機械的なものから人によく似たアンドロイドのようなものまで様々な種類が存在する。アンドロイドのようなロボットは信頼感が向上することがわかっていることから、人とロボットとのインタラクションに関する研究分野 (HRI) では広く用いられる傾向がある。しかし、不気味の谷仮説によると、あまりにも人によく似たロボットに対して、人は不気味に感じてしまうという問題があることが知られている。また、不気味さは動きが加わることによりさらに増幅すると考えられている。森は不気味さを抑える方法として、不気味の谷の第1ピークを目指すことを提案している。</p> <p>そこで本研究では、第1ピークの外見の一つとしてアニメの外見と動きに着目し、アニメ調ロボットの実現のためのバーチャルエージェントを用いた外見と動きの関係が不気味さに与える影響を調査する。そのために本研究では次の3つの実験を行う。実験1および2では、リアル調とアニメ調の外見に対してリアルなモーションキャプチャの動きとアニメ特有の動きであるリミテッドアニメーションおよび誇張動作の組み合わせによる不気味さの調査を行う。実験3ではアニメキャラクタ特有の異なる頭身のキャラクタとアニメ調の動きの組み合わせによる不気味さの調査する。本研究はアニメ調のロボットを実装する際の適した動きの組み合わせが明らかになることが期待される。</p>			